

---

[成果情報名] アメダス気象情報を利用したイチジク黒葉枯病初発日の予測

[要約] イチジク黒葉枯病の初発日は、5月以降において平均気温 20℃以上の1時間降水量の積算が 50mm に達した日から推定され、本病の初発日が早いほど、その年の発生量は多くなる。

[キーワード] イチジク黒葉枯病、発生推移、平均気温 20℃以上、降水量

[担当部署] 病害虫部・病害虫チーム

[連絡先] 092-924-2938

[対象項目] 果樹

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 技術改良

---

[背景・ねらい]

イチジク黒葉枯病は葉、果実、枝幹に発生し、特に「とよみつひめ」では収量や樹勢に大きな影響を与える。そこで、本病防除対策として6～7月の薬剤散布と越冬源である病斑削除を組み合わせた総合防除で効果が高いことを明らかにした(平成24年度成果情報)。一方、薬剤散布の開始時期は本病初発日の約2週間前が有効であるが、初発日は気象条件の違いにより年次間で大きく異なる。そこで、気象条件と本病の初発日、発生量との関連性を解析し、薬剤の散布開始時期を明らかにする。

(要望機関名：南筑後普 (H21))

[成果の内容・特徴]

1. 平均気温 20℃以上の降水量、降雨日数、並びに黒葉枯病の初発日との関連性から、平均気温 20℃以上の1時間降水量の積算と本病の初発日との間には高い正の相関が認められ、50mm に早く達するほど、初発日は早くなる(図1、一部データ略)。
2. 5月1日を起点にした場合、本病の初発日は  $0.79x + 6月16日$  ( $x$  は平均気温 20℃以上の1時間降水量の積算が 50mm に達した日数) と推定される(図1)。
3. 初発日が早いほど、8月下旬～9月上旬の本病発生は多くなる(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 本病防除対策のため、「福岡県病害虫・雑草防除の手引き」に掲載する。
2. 本成果情報における初発日は、上位葉にも感染し、本病の発生拡大に影響が大きい子のう胞子による発病が始まる日(6節以上の上位葉における初発日)とする。
3. 薬剤散布は推定される本病初発日の約2週間前に実施し、以後、概ね10日間隔で梅雨明けまで継続して実施する。

[具体的データ]

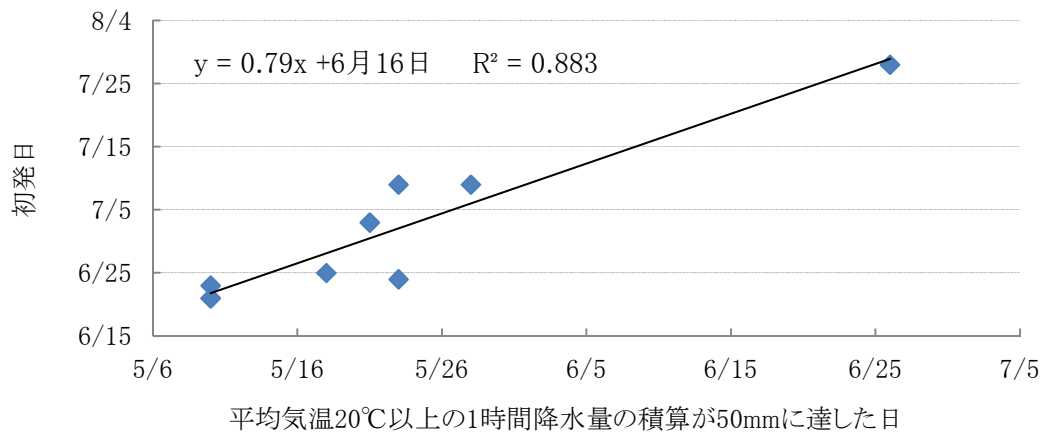


図1 平均気温 20℃以上の 1 時間降水量の積算と黒葉枯病初発日の関係

- 注) 1. 図中の相関式のうち、y は初発日、x は5月1日を基点とした平均20℃以上の1時間降水量の積算が50mmに達した日数を表す。
2. 平成21年～26年にのべ8か所のとよみつひめ露地栽培圃場(柳川、朝倉、大刀洗)の初発日を調査。初発日は6節以上の上位葉における発病の確認日。
3. 平均気温、1時間降水量は調査地点から最寄りの久留米と朝倉のアメダスデータを使用。

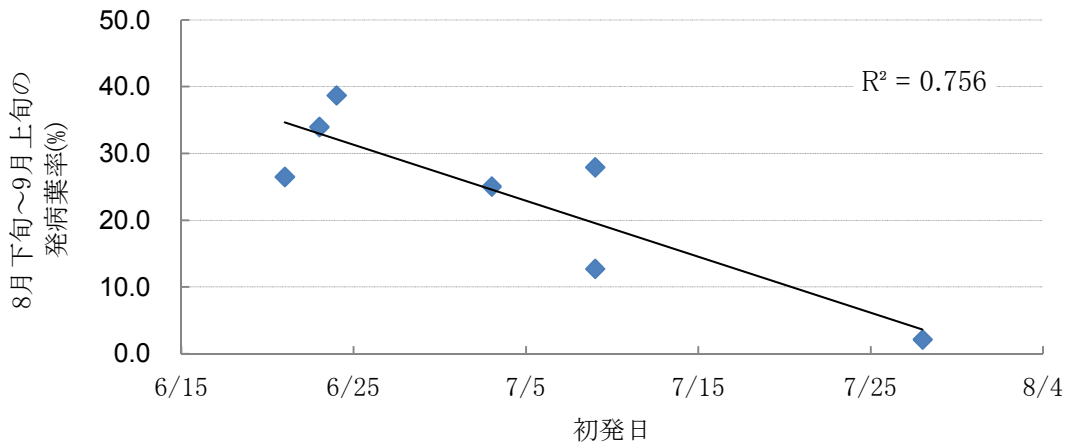


図2 黒葉枯病初発日と8月下旬～9月上旬の発病葉率の関係

- 注) 1. 図1と同じ圃場について発病葉率を調査。
2. 調査圃場は、慣行防除が行われている農家圃場。

[その他]

研究課題名：イチジク黒葉枯病の効率的防除対策の確立

予算区分：経常

研究期間：平成26年度（平成24～26年）

研究担当者：菊原賢次